

中山町消防団 全国消防操法大会出場

11月8日、「第24回全国消防操法大会」が東京臨海広域防災公園（東京都江東区）で開催され、ポンプ車操法の部に、山形県を代表して中山町消防団が出場しました。
「消防団の甲子園」と呼ばれるこの大会に臨むため、出場選手は昨年11月から厳しい訓練に励んできました。今回は、大会本番の様子と大会出場までの道のりを振り返ります。



【出場選手】

	氏名	所属
指揮者	今野 勝敏	第4分団第3部
1番員	渡邊 裕也	第4分団第3部
2番員	高橋 想磨	第4分団第3部
3番員	齋藤 泰史	第2分団第1部
4番員	浅倉 慶彦	第2分団第2部
補助員	石沢 卓	第3分団第1部



1年間の訓練がスタート

昨年11月、日ごとに寒さが厳しくなる中、防災センターの一室で全国大会出場へ向けての訓練が始まりました。訓練参加者は、各分団から選出された12名の団員たち。それぞれが仕事を持つ中、早朝や勤務終了後に集まったの訓練です。

初めは、競技の要領を理解することからスタート。どのような動作・操作が減点につながるのか、何度も繰り返し実施要領を読み合わせました。

同時に、各自での体力作りも始まりました。これから1年間におよぶ訓練に耐えるには、まずは基礎体力をつけなければなりません。地道でハードな体力錬成は、大会直前まで続きました。

基本動作の大切さ

11月後半には、基本動作の訓練が始まりました。気をつけ、右へならえ、整列・休めの姿勢。

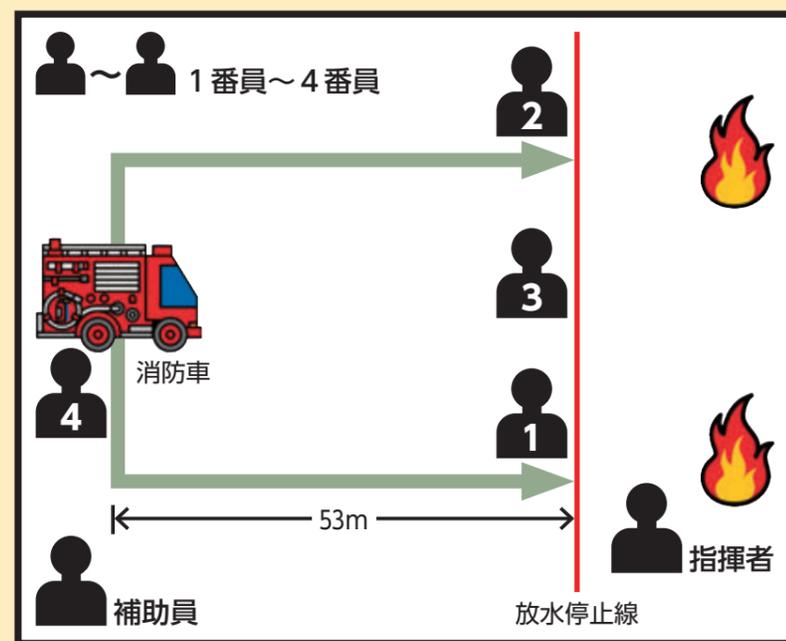
簡単な動作に見えるかもしれませんが、指先の伸ばし方、足を開く幅など、基本動作を選手全員でピタリとそろえることは、操法において重要なポイントとなります。

何十回、何百回。選手たちは、来る日も来る日も同じ動作を繰り返し、体で覚ええました。この地道な訓練は、約4か月におよびました。

そして、やっと、車両を使用する乗車訓練。

選手たちは、気の遠くなるような訓練に耐え、日々基礎を磨いたのです。

消防操法とは？



消防操法とは、消火活動の基本動作を集約したもので、火点を想定した2つの標的を放水して倒すまでのタイムを競います。指揮者、1番員、2番員、3番員、4番員、補助員の計6人で行い、それぞれの番員にホース展張や放水、機械操作などの役割・要領が細かく定められています。

大会では、標的を倒すまでのタイムのほか、操作の安全性・確実性・迅速性や規律などが審査の対象となります。